

木村病院 2025プラン

令和5年7月 策定

【木村病院の基本情報】

- (1) 医療機関名：木村病院
- (2) 開設主体：医療法人柱名会
- (3) 所在地：愛知県名古屋市長区名東本通2-22-1
- (4) 許可病床数：58床
(病床の種別) 一般58床
(病床機能別) 回復期58床
- (5) 稼働病床数：同上
- (6) 診療科目：
内科、循環器内科、糖尿病内科、外科・消化器科、血管外科、整形外科、
脳神経外科、泌尿器科、皮膚科・美容外科、腎臓内科
- (7) その他：名東老健保健施設／リハピネス梅森坂／さくらの丘クリニック
さくらの丘クリニック／名東総合ケアセンター／名東区南部いきいきセンター
ReHOPE 星が丘
- (8) 職員数：196名
 - ・医師 33名 (常勤7名、非常勤26名)
 - ・看護職員 43名 (看護師42名、准看護師1名)
 - ・看護補助者 17名
 - ・薬剤師 2名
 - ・臨床検査技師 4名
 - ・放射線技師 3名
 - ・PT、OT、ST 64名
 - ・管理栄養士 2名
 - ・社会福祉士 2名
 - ・臨床工学技士 0名
 - ・事務職員 26名

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

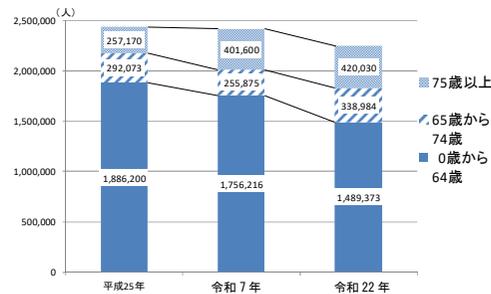
(人口の見通し)

- 名古屋医療圏は、県内人口の3割以上が集中しており、全国的にも大阪市医療圏、札幌医療圏に次いで3番目に人口が多い2次医療圏となっています。
- 総人口は県全体と同様の推移で減少します。65歳以上は増加していき、県全体より増加率は高くなっています。

＜人口の推移＞ ※ () は平成25年を1とした場合の各年の指数

区分	総人口			65歳以上人口								
	平成25年	令和7年	令和22年	平成25年			令和7年			令和22年		
				平成25年	令和7年	令和22年	平成25年	令和7年	令和22年	平成25年	令和7年	令和22年
県	7,434,996 (1.00)	7,348,135 (0.99)	6,855,632 (0.92)	1,647,063 (1.00)	1,943,329 (1.18)	2,219,223 (1.35)	741,801 (1.00)	1,165,990 (1.57)	1,203,230 (1.62)			
名古屋・尾張中部	2,435,443 (1.00)	2,413,691 (0.99)	2,248,387 (0.92)	549,243 (1.00)	657,475 (1.20)	759,014 (1.38)	257,170 (1.00)	401,600 (1.56)	420,030 (1.63)			

＜名古屋・尾張中部構想区域＞



(医療資源等の状況)

- 病院数が多く、また、大学病院が2病院あり、救命救急センターも6か所整備されています。人口10万対の病院の一般病床数や医療従事者数は県平均を大きく上回っており、医療資源が豊富です。
- DPC調査結果(DPC調査参加施設:24病院)によると、圏域内において、ほぼ全ての主要診断群の入院及び救急搬送実績があり、緊急性の高い傷病(急性心筋梗塞・脳卒中・重篤な外的障害)及び高齢者の発生頻度が高い疾患(成人肺炎・大腿骨骨折)の入院実績があり、病院数及び実績数が他圏域と比べ著しく多いことから、圏域内の急性期入院機能が充実していると考えられます。
- 消防庁データに基づく救急搬送所要時間については県平均と同様であり、DPC調査データに基づく緊急性の高い傷病(急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞、くも膜下出血・破裂脳動脈瘤、頭蓋・頭蓋内損傷)の入院治療を行っている施設までの移動時間は、30分以内で大半の人口がカバーされていることから、医療機関への交通アクセスや医療機関の受け入れ体制等に大きな問題が生じていないと考えられます。

- 高度な集中治療が行われる特定入院料の病床については、平成28年3月現在、圏域内(18病院)において、救命救急入院料・特定集中治療室管理料(ICU)・新生児特定集中治療室管理料(NICU)・総合周産期特定集中治療室管理料(MFICU)・ハイケアユニット入院医療管理料(HCU)・新生児治療回復室入院医療管理料(GCU)の届出がされています。
- 平成25年度(2013年度)NDBデータに基づく特定入院料の名古屋医療圏の自域依存率は高い状況にありますが、脳卒中ケアユニット入院医療管理料(SCU)については尾張東部医療圏へ患者の流出があります。尾張中部医療圏の自域依存率は0%であり、主に名古屋医療圏及び尾張北部医療圏へ患者が流出しています。

＜医療資源等の状況＞

区分	愛知県①	名古屋・尾張中部②	②/①
病院数	325	137	—
人口10万対	4.4	5.6	127.8%
診療所数	5,259	2,166	—
有床診療所	408	130	—
人口10万対	5.5	5.3	97.1%
歯科診療所数	3,707	1,517	—
人口10万対	49.9	62.3	124.8%
病院病床数	67,579	25,978	—
人口10万対	908.9	1,066.7	117.4%
一般病床数	40,437	16,748	—
人口10万対	543.9	687.7	126.4%
療養病床数	13,806	4,493	—
人口10万対	185.7	184.5	99.3%
精神病床数	13,010	4,604	—
人口10万対	175.0	189.0	108.0%
有床診療所病床数	4,801	1,573	—
人口10万対	64.6	64.6	100.0%

区分	愛知県①	名古屋・尾張中部②	②/①
医療施設従事医師数	14,712	6,538	—
人口10万対	197.9	268.5	135.7%
病床100床対	20.3	23.7	116.9%
医療施設従事歯科医師数	5,410	2,270	—
人口10万対	72.8	93.2	128.0%
薬局・医療施設従事薬剤師数	10,525	4,065	—
人口10万対	141.6	166.9	117.9%
病院従事看護師数	36,145	14,310	—
人口10万対	486.1	587.6	120.9%
病床100床対	49.9	51.9	104.1%
特定機能病院	4	2	—
救命救急センター数	22	6	—
面積(km ²)	5,169.83	368.34	—

(入院患者の受療動向)

【名古屋医療圏】

- 入院患者の自域依存率は、高度急性期、急性期、回復期は9割程度と非常に高い水準にあります。また、他の2次医療圏や県外からの患者の流入も多くみられます。

＜平成25年度の名古屋医療圏から他医療圏への流出入院患者の受療動向＞

(単位:上段 人/日、下段:%)

患者住所地	医療機関所在地											合計		
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部		東三河南部	県外
名古屋医療圏	高度急性期	1,321	*	*	154	*	16	16	*	*	*	*	*	1,507
		87.7%	—	—	10.2%	—	1.1%	1.1%	—	—	—	—	—	100.0%
	急性期	3,735	*	16	414	10	48	16	*	*	*	*	*	4,239
		88.1%	—	0.4%	9.8%	0.2%	1.1%	0.4%	—	—	—	—	—	100.0%
	回復期	3,819	79	26	270	13	56	20	*	*	21	*	*	21
	88.3%	1.8%	0.6%	6.2%	0.3%	1.3%	0.5%	—	—	0.5%	—	—	0.5%	100.0%
慢性期	2,191	36	119	117	12	84	46	29	*	22	*	16	71	2,743
	79.9%	1.3%	4.3%	4.3%	0.4%	3.1%	1.7%	1.1%	—	0.8%	—	0.6%	2.6%	100.0%

＜平成25年度の他医療圏から名古屋医療圏への流入院患者の受療動向＞

(単位：上段 人/日、下段：%)

医療機関所在地	患者住所地													合計	
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外		
名古屋医療圏	高度急性期	1,321	88	50	61	33	63	99	20	12	20	*	11	48	1,826
		72.3%	4.8%	2.7%	3.3%	1.8%	3.5%	5.4%	1.1%	0.7%	1.1%	—	0.6%	2.6%	100.0%
	急性期	3,735	188	123	136	65	124	213	34	26	39	*	24	141	4,848
		77.0%	3.9%	2.5%	2.8%	1.3%	2.6%	4.4%	0.7%	0.5%	0.8%	—	0.5%	2.9%	100.0%
	回復期	3,819	170	112	174	54	117	163	30	16	32	*	19	124	4,830
	79.1%	3.5%	2.3%	3.6%	1.1%	2.4%	3.4%	0.6%	0.3%	0.7%	—	0.4%	2.6%	100.0%	
慢性期	2,191	80	33	130	23	47	47	17	*	23	*	*	16	2,607	
	84.0%	3.1%	1.3%	5.0%	0.9%	1.8%	1.8%	0.7%	—	0.9%	—	—	0.6%	100.0%	

- ・厚生労働省から提供された「必要病床数等推計ツール」のデータを基に作成。
- ・レポート情報等活用の際の制約から、集計結果が10(人/日)未満となる数値は公表しないこととされており、「*」と表示している。

【尾張中部医療圏】

- 入院患者の自域依存率は、高度急性期、急性期、回復期が非常に低くなっており、名古屋医療圏へ多くの患者が流出しています。また、慢性期については、名古屋医療圏から多くの患者が流入しています。

＜平成25年度の尾張中部医療圏から他医療圏への流出入院患者の受療動向＞

(単位：上段 人/日、下段：%)

患者住所地	医療機関所在地													合計	
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外		
尾張中部医療圏	高度急性期	50	*	*	*	*	19	*	*	*	*	0	*	*	69
		72.5%	—	—	—	—	27.5%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
	急性期	123	*	82	*	16	46	*	*	*	*	0	*	*	267
		46.1%	—	30.7%	—	6.0%	17.2%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
	回復期	112	*	111	*	19	46	*	*	*	*	0	*	*	288
	38.9%	—	38.5%	—	6.6%	16.0%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%	
慢性期	33	*	104	*	*	25	*	0	0	*	0	*	*	162	
	20.4%	—	64.2%	—	—	15.4%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%	

＜平成25年度の他医療圏から尾張中部医療圏への流入入院患者の受療動向＞

(単位：上段 人/日、下段：%)

医療機関所在地	患者住所地													合計	
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外		
尾張中部医療圏	高度急性期	*	*	*	*	*	*	*	*	0	*	*	*	*	*
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
	急性期	16	*	82	*	*	*	*	*	0	*	*	*	*	98
		16.3%	—	83.7%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
	回復期	26	12	111	*	26	*	*	*	0	*	*	*	*	175
	14.9%	6.9%	63.4%	—	14.9%	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0%	
慢性期	119	21	104	*	30	15	*	0	0	0	0	0	*	289	
	41.2%	7.3%	36.0%	—	10.4%	5.2%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%	

② 構想区域の課題

- 大学病院が2病院あり、救命救急センターも6か所整備されている等、高度な医療を広域に支える役割があり、今後も高度・専門医療を確保し、緊急性の高い救急医療について、他の構想区域との適切な連携体制を構築していく必要があります。
- 人口が多く、面積も広いため、構想区域内の医療提供体制の地域バランスに留意する必要があります。
- 回復期機能の病床を確保する必要があります。

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟再開予定	休棟廃止予定	全体
令和7年の必要病床数①	2,885	8,067	7,509	3,578			22,039
令和3年病床機能報告②	5,954	7,542	3,267	3,743	473	93	21,072
差引(①-②)	-3,069	525	4,242	-165	-473	-93	967

③ 自施設の現状

- 基本理念
地域のお役に立つ病院であり続けます。
- 基本方針
地域のニーズに応える医療を提供します。
患者様に寄り添うチーム医療を目指します。
きれめのないリハビリテーションを支えます。
よりよいサービスを提供するあめの業務改善に取り組みます。

○ 診療実績(令和4年7月～令和5年6月)

- ・入院基本料：回復期リハビリテーション入院料11病棟
- ・平均在院日数：41.08日
- ・病床稼働率：98.56%
- ・入院延患者数：1785.1人(月平均21421人、1日平均57.1人)
- ・外来延患者数：40737人(月平均3395人、1日平均110.1人)
- ・紹介患者数：830人(月平均69.2人)
- ・紹介率：71.1%
- ・逆紹介率：6.3%

(8) 職員数：196名

- ・医師 33名(常勤7名、非常勤26名)
- ・看護職員 43名(看護師42名、准看護師1名)
- ・看護補助者 17名
- ・薬剤師 2名
- ・臨床検査技師 4名
- ・放射線技師 3名
- ・PT、OT、ST 64名
- ・管理栄養士 2名
- ・社会福祉士 2名
- ・臨床工学技士 0名
- ・事務職員 26名

○自施設の特徴

- ・回復期機能として回復期リハビリテーション病棟入院料届出病床を有している。
- ・回復期リハビリにおける、経験と実績において急性期病院から高い信頼を得ている。
- ・名古屋市において関連医療機関を4施設（老健含む）有しており急性期から回復期・慢性期まで一気通貫でケアを行うことができる。
- ・またベッド機能だけでなく、訪問診療・訪問リハまで在宅に対してもケアも行う事が出来、裾野が広い医療を提供することが出来る。

○主な連携先医療機関

- ・愛知医科大学病院大及び名古屋市立大学医学部附属東部医療センター、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院、名古屋掖済会病院、社会福祉法人聖霊会 聖霊病院との病病連携をとっております。

④ 自施設の課題

- すでに高稼働で病床運営を行っており、地域で発生している医療需要に対して応えきれていないところがある。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- 高度急性期、急性期医療を担う病院の後方支援における回復期機能の更なる強化として回復期病棟を充実させ、特に名古屋医療圏のポストアキュートにおけるリハビリテーションの安定的提供に今以上が貢献したい。

② 今後持つべき病床機能

- 名古屋医療圏において急性期入院機能が充実している中で回復期機能が不足している、回復期リハビリテーション機能を更に充実させていくことで在宅復帰への役割を果たしていく。

③ その他見直すべき点

- 回復期病棟の機能の充実と関連医療機関との連携を更に強化、ポストアキュート機能を高めて名古屋医療圏の医療需要に十分応え、地域住民の健康と安心に貢献する。

【3. 具体的な計画】

① 4 機能ごとの病床のあり方について

医療法人白楊会白楊会病院の現在休業中の病床24床を19床の一般型有床診療所に変更開業後、開設者を医療法人桂名会に変更する開設者変更と事業承継の手続きを行い医療法人桂名会として一般型有床診療所を開設した後に19床の病床を木村病院に病床移動を行う。

<今後の方針>

	現在 (令和4年7月現在)			将来 (2025年度)
	木村病院	白楊会病院		木村病院
高度急性期			→	
急性期				
回復期	58床			77床
慢性期		19床		
(合計)	58床	19床		77床

② 診療科の見直しについて

予定なし。

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率 : 98.56%
- ・ 紹介率 : 71.1%
- ・ 逆紹介率 : 6.3%

経営に関する項目*

- ・ 人件費率 : 63.0%未満

以上